

### 3 戦争と火工廠

今から60年以上前の昭和16年12月8日に、日本はアメリカ・イギリスをはじめとする多くの国ぐにを相手に太平洋戦争を始めました。3年8か月以上にわたるはげしい戦いのなかで、火工廠では1か月に200万発以上の鉄砲の弾を作り続けました。昭和20年8月15日に日本が降伏して戦争は終わりました。日本の陸軍は廃止されて火工廠もなくなりました。

#### 火工廠Q&A パート3

問①：戦争中に日本の各地はアメリカ軍の飛行機によりはげしい爆撃を受けました。火工廠も爆撃されましたか？

答え：爆撃はされませんでした。飛行機から機関銃でうたれたことが何回もありました。飛行機から建物を見えにくくするために、壁や屋根に黒いしま模様(迷彩塗装)が塗られました。

問②：火工廠では、戦争が終わりごろになると秘密兵器を作っていたようですが、本当ですか？

答え：本当です。アメリカまで爆弾を付けた気球を飛ばして攻撃するという秘密兵器の風船爆弾の部品を作っていました。

問③：むかしの火工廠の建物で今も残っているものはありますか？

答え：ほとんどがとりこわされてしまいました。

昔の写真や、働いていた人たちの話を聞いて、それをもとにして火工廠の模型(500分の1)を作りました。みなさんも模型を見ながらむかしの火工廠の姿を思い浮かべてみましょう。



戦争がはげしくなるにつれて、金属が足りなくなって瀬戸物で手榴弾を作ったんだ



火工廠で火薬をつめていた陶製手榴弾(上福岡市立歴史民俗資料館所蔵)